

あの紙ヒコーキ、くもり空わって中庭に積もる！

『やまなみ』『頂』『4組の仕組み』『真勇通信』『カマダ通信』『Revolution with △△』『Harmony』『輝きの未来(あす)へ』『校長室からこんにちは！』。これらは、学校から発出されている各種たよりの名称である。

ネーミングの由来や命名に思いがそれぞれに込められているのだと思うと感慨深い。その他、学年だより・保健だより・図書館だより等々、それぞれに読み応えがある。また、学級だよりは、その先生の個性や人間性が垣間見えて趣がある。

むろん各種たよりの発行は、学年・学級・担当の裁量と捉えて全く問題ない。日々の会話や対話はもちろん、オレンジノートなど情報交換・情報発信の有効な手段は他にもある。十分に生徒や保護者とコミュニケーションをとれている先生方ばかりで、たより等の発行の有無は、当然個々の考えや事情を尊重するものである。

それはさておき、たよりを発行するにもそれなりの労力は必要だ。我が愚妻も、朝早く起きて家でパソコンに向かっているときは、ほぼ学級だよりの作成である。要領が悪く仕事が遅いこともあり、家に持ち帰って仕事しているようでは働き方改革に逆行しているから、特に無理して発行する必要などないだろうと、ことあるごとに言い続けてきたが、『『こだわり』だから』『だれにも迷惑かけているわけじゃないし』の一言で片づけられる。教職についてから三十数年、一貫して『Guts』という名称で発行している彼女だが、「生徒や親がみんな読んでくれるといいんだけどね」とつぶやくと、「いいの、自分自身の『こだわり』なんだから」。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

先般11月10日に「情報モラル講演会」が実施された。終了後、教務主任の先生から次のように相談された。

「テストが終了したので、講演会の時間を、テストのマル付けがある先生にはその時間に充ててもらった方が良かったですかねえ。」なるほど、常日頃から、行事日程や日々の時程調整を一手に仕切り、先生方の業務の負担軽減も第一に考えてくれている教務主任の先生のやさしさと配慮に感心した。確かに、2時間分の時間が確保できるなら、5教科の先生は大いに助かる先生もいたはずだ。でも、いや待てよ・・・と思った。

